

— 第24期 —

決算説明会

2005年6月1日



Globality Engineering Maker

株式会社 エスイー

第24期損益計算書 (連結)

単位：百万円

科目	平成16/3期	平成17/3期	増減額
I 売上高	9,293	8,739	△554
II 売上原価	6,356	6,330	△25
売上総利益	2,937	2,408	△528
(売上総利益率)	(31.6%)	(27.6%)	(△4.0)
III 販売運賃・販売手数料	263	268	5
IV その他販売・管理原価	2,275	2,269	△5
営業利益	399	△129	△528
V 営業外収益	73	50	△22
VI 営業外費用	43	44	0
経常利益	428	△123	△551
VII 特別利益	20	4	△15
VIII 特別損失	13	51	37
税金等調整前当期純利益	434	△169	△604
法人税・住民税・事業税	196	△47	△243
当期純利益	238	△122	△360

環境防災
△166百万円

社会インフラ
△384百万円

環境防災
△390百万円

社会インフラ
△126百万円

特別退職金
39百万円

分野別売上高・粗利益 (連結)

単位：百万円

区 分		平成16/3期		平成17/3期		
		百万円	構成比	百万円	構成比	増減率
環境防災事業	売上	7,128	76.2%	6,962	79.7%	△2.3%
	粗利益	2,509		2,119		△15.5%
	利益率	(35.2%)		(30.4%)		(△4.8)
社会インフラ事業	売上	2,012	21.8%	1,628	18.6%	△19.1%
	粗利益	392		266		△31.9%
	利益率	(19.5%)		(16.4%)		(△3.1)
バイオマスその他	売上	152	2.0%	149	1.7%	△2.6%
	粗利益	36		21		△39.2%
	利益率	(23.6%)		(14.7%)		(△8.9)
合 計	売上	9,293	100%	8,739	100%	△6.0%
	粗利益	2,937		2,408		△18.0%
	利益率	(31.6%)		(27.6%)		(△4.0)

第24期貸借対照表(1) (連結)

単位：百万円

科目	平成16/3期	平成17/3期	増減額
資産の部			
現預金	876	817	△59
営業債権	5,195	4,952	△242
棚卸資産	560	827	267
その他	203	293	89
流動資産 計	6,836	6,890	54
有形固定資産	2,992	3,115	123
無形固定資産	99	71	△27
投資その他の資産	1,379	1,452	72
固定資産 計	4,471	4,639	168
資産合計	11,308	11,530	222

受取手形
△638百万円

売掛金
394百万円

原材料
262百万円

構築物・土地
88百万円

投資有価証券
74百万円

第24期貸借対照表(2) (連結)

単位：百万円

科目	平成16/3期	平成17/3期	増減額
負債の部			
営業債務	3,034	3,479	445
一年内返済長期借入金	379	354	△25
一年内償還社債	74	184	110
その他	450	224	△222
流動負債計	3,938	4,242	304
社債	259	570	311
長期借入金	797	570	△226
退職給付引当金	289	317	28
その他	352	369	17
固定負債計	1,698	1,827	129
負債合計	5,636	6,070	434
資本の部			
資本金その他	5,859	5,633	△225
有価証券評価差額金	△9	3	13
自己株式	△177	△177	—
資本合計	5,671	5,459	△212
負債・少数株主持分・資本合計	11,308	11,530	222

支払手形
46百万円

買掛金
399百万円

未払法人税等
△204百万円

利益剰余金
△239百万円

キャッシュフロー計算書 (1) (連結)

単位：百万円

科目	平成16/3期	平成17/3期	増減額
I 営業活動によるキャッシュフロー			
税金等調整前当期純利益	434	△169	△604
減価償却費	205	213	7
売上債権の増減額 (増加:△)	△210	242	453
棚卸資産の増減額 (増加:△)	△19	△266	△247
仕入債務の増減額 (減少:△)	74	446	371
法人税等の支払額	△301	△229	71
その他	41	29	△11
計	226	266	39
II 投資活動によるキャッシュフロー			
有形固定資産の取得による支出	△68	△296	△228
無形固定資産の取得による支出	△14	△13	1
投資有価証券の取得による支出	△113	△10	102
その他	44	△45	△90
計	△150	△366	△215

キャッシュフロー計算書 (2) (連結)

単位：百万円

科目	平成16/3期	平成17/3期	増減額
Ⅲ 財務活動によるキャッシュフロー			
短期借入による収入	200	—	△200
短期借入の返済による支出	△200	—	200
長期借入による収入	80	150	70
長期借入の返済による支出	△450	△402	48
社債発行による収入	362	539	176
社債償還による支出	△37	△129	△92
親会社による配当金の支払額	△119	△117	2
自己株式取得による支出	△62	—	62
計	△227	40	267
Ⅳ 現金及び現金同等物期末残高	791	732	△59

足元戦略と中期的な展望

◆ 「開発型企业」への取組み

～ 縮小する市場下での生き残りと更なる成長～

- 世界水準の斜材架設技術の開発
- 市場ニーズに対応した新製品の開発、既存製品の改良
KIT、タイブルアソカーM型、真空グラウト、落橋防止ユニバーサルシステム
- 成長期待分野への参入（バイオマス）
- 海外市場での業務拡大（アンジェロセック）
- 時流を見据えた取組み
OEM（客観的評価法）と品確法（品質保証）

平成16年度 総括

赤字決算の主要因

1. 市場規模の更なる縮小
 - 公共事業予算の減少とそれに伴う競争の激化
2. 鋼材を主とする原材料価格の急騰
 - コスト削減努力を上回る価格の上昇
3. 斜材開発及びバイオマス事業への投資

積極投資と事業再構築

1. 斜材開発実験タワー、バイオマス事業
2. 人員の削減、厚木工場の合理化

平成17年度での対策

■ 事業再構築への積極的取組み

1. 利益重視の経営

2. 得意とする価値の提案

- ① 斜材の架設技術と市場拡大
- ② KIT受圧板の拡販による市場の拡大
- ③ 真空グラウト・PCケーブルの拡販
- ④ ソフトエンジニアリングサービスによる工法及び製品の高付加価値化

平成17年度での対策

■ 事業再構築への積極的取組み

3. 事業効率の大改革

- ① 本社・支店 人員削減による少数精鋭化
- ② 厚木工場の合理化
- ③ 会社組織機能の明確化と事業運営のマンネリ化防止
- ④ 人材開発
- ⑤ 効率的な経営を行う為、儲かる部門に会社の資源を集中する
- ⑥ 計画と実績の乖離を防止するマネジメントシステムの運用

4. 海外市場開拓

- ① アフリカ圏・中国市場（アンジェロセック）
- ② 韓国市場・中国市場（エスイー）

平成17年度での対策

■ 営業面での対策

営業統轄本部、販売戦略会議の設置

- 戦略意思統一の徹底とスピードアップ
- 高付加価値製品部門への資源の集中と合理的な市場戦略

■ コストプッシュへの対策

- 人員削減と人的資源の効率化
- 生産、物流拠点を山口工場へ集約

■ 原材料価格高騰対策

- 製品建値への価格転嫁
- 製造原価削減努力

激化する競争に勝つ為に

I. 新技術の開発

- ◆ 斜張橋プロジェクト (MSEC AQSS)
世界的レベルの斜材架設技術

II. 既存事業分野の活性化

- ◆ KIT受圧板
- ◆ タイブルアンカーM型
- ◆ 真空グラウト
- ◆ 落橋防止ユニバーサルシステム

III. 新規事業分野と新しい市場への展開

- ◆ バイオマス事業 (プラントエンジニアリングと基幹機器)
- ◆ 学校・病院等の耐震補強 (パラレル構法)
- ◆ 北海道市場

1. MSECシステム

斜張橋の施工管理に革新的な理論的手法を導入

架設スピード

現場データを自動的にシステムに取り込み、適切な調整量を瞬時に算出。

正確性

独自の施工管理理論により、施工誤差のミニマム化。

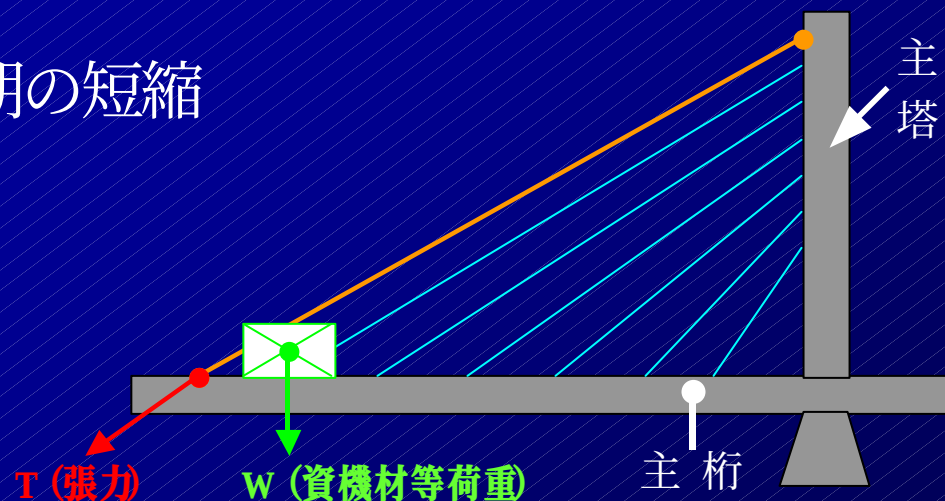
適合性

いかなる架設条件下への最適化。

現場作業のミニマム化、工期の短縮



建設コストの削減に寄与



2. AQ Stressing System

● 斜材ケーブル架設時の要求性能

- i. ケーブルを構成する各ストランドの張力を均一にする。
- ii. ケーブル全体の張力を設計値に近づける
- iii. スピーディーな架設

AQ Stressing Systemは独自の制御理論に

より上記 i、ii、iiiを満たすシステム

斜張橋プロジェクト

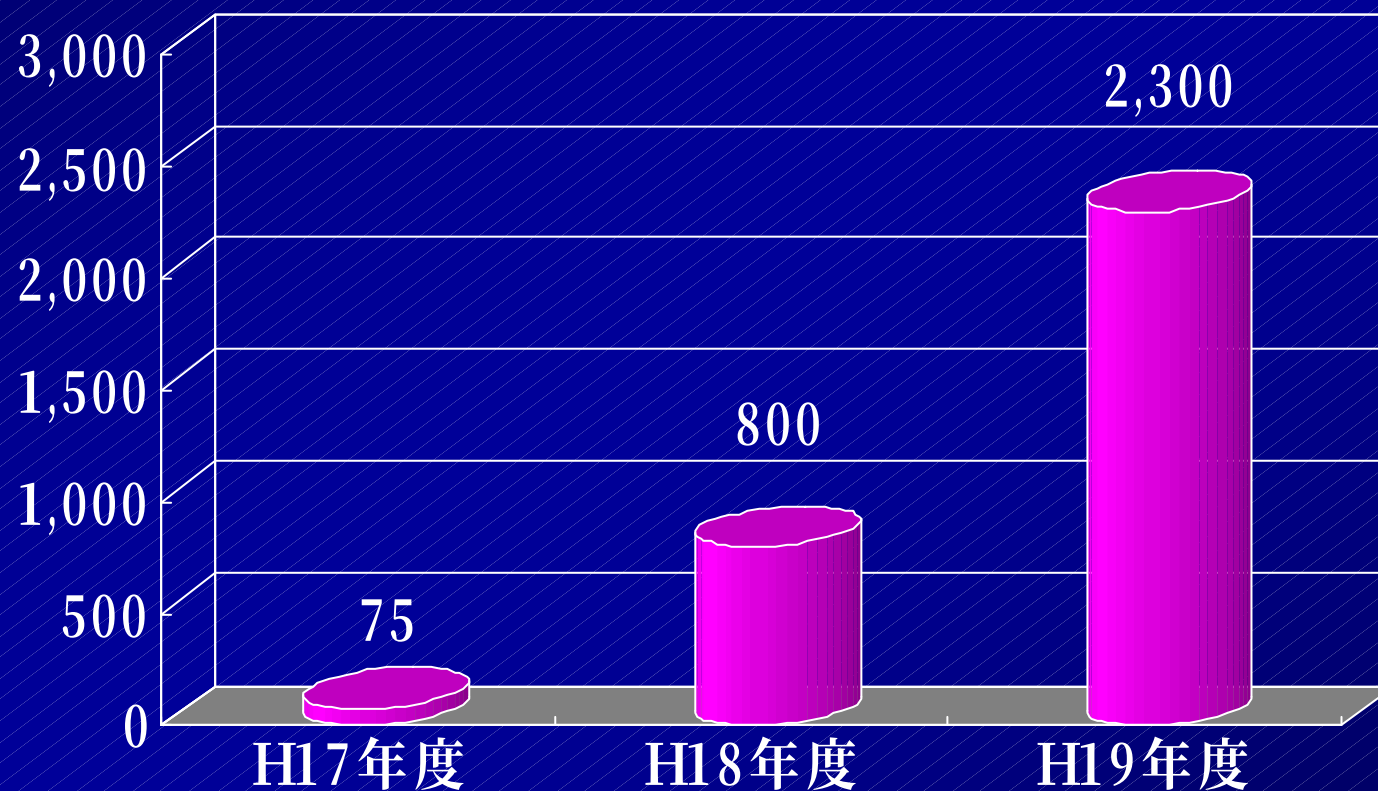


ミヨー高架橋

斜張橋プロジェクト

■ 大型斜張橋プロジェクトの売上予測

(百万円)



1. KITフレーム・KIT受圧板

(2002年10月) KITフレーム 発売開始



▶
(緑化後)



(2003年12月) KIT受圧板 発売開始

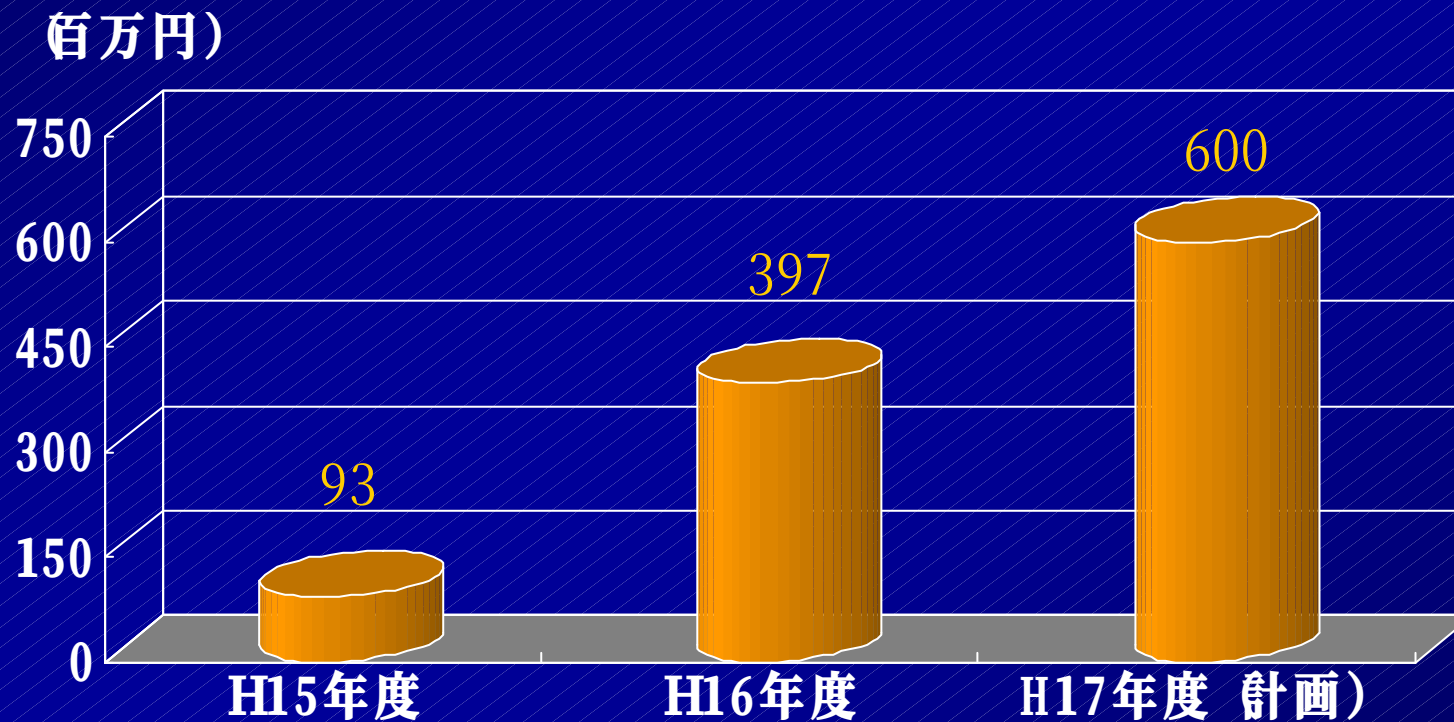


▶
(緑化後)



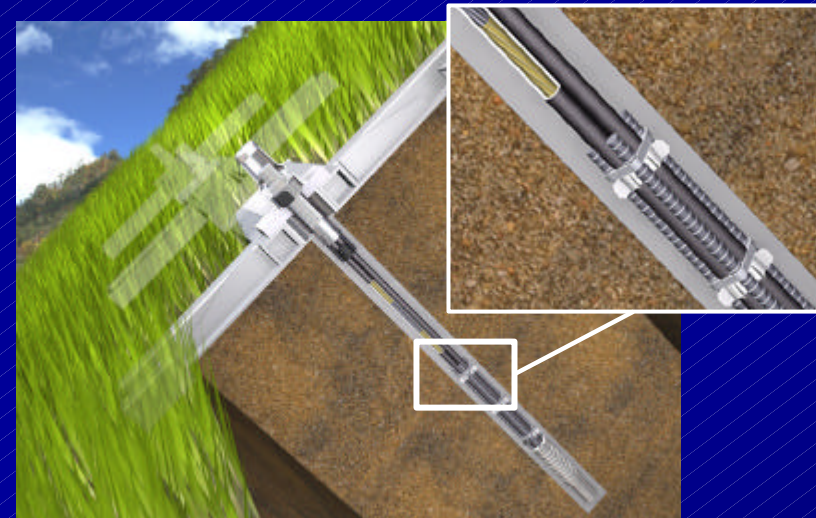
1. KITフレーム・KIT受圧板

■ 売上高の推移 (KITフレーム・KIT受圧板)



2 タイブルアンカーM型

(財) 砂防・地すべり技術センター
より技術審査証明取得



- 削孔径の縮小により工事コスト縮減
- 脆弱地盤への応用拡大

現地生産体制の整備



更なるコスト縮減

北海道市場における戦略製品

3. 真空グラウト

(従来型)



改良型



真空グラウトポンプの改良

- 大幅な軽量化
- キャスター設置でハンドリング向上
- 遠隔地からのリモコン操作が可能

3. 真空グラウト

～ 施工実績 ～

橋 名	グラウト施工時期	発 注 者
八田川橋	2002年 11月	国土交通省近畿地方整備局
居伝高架橋	2003年 10月	国土交通省近畿地方整備局
垂井高架橋	2004年 2月	和歌山県橋本市
竹田第5工区	2004年 6月	阪神高速道路公団
三宅高架橋	2004年 6月	国土交通省近畿地方整備局
多ノ郷高架橋	2004年 6月	国土交通省四国地方整備局
宮古高架橋	2004年 6月	国土交通省近畿地方整備局
加茂地区高架橋	2004年 7月	国土交通省近畿地方整備局
国文都市地区B3橋梁	2004年 8月	都市基盤整備公団
竹田第3工区	2004年 8月	阪神高速道路公団
矢切高架橋	2004年 8月	国土交通省首都国道事務所
仙台空港線高架橋	2004年 9月	国土交通省東北地方整備局
竹田第4工区	2004年 9月	阪神高速道路公団
天満橋	2004年 11月	宮崎県
中部大学進入路	2004年 11月	中部大学
菅坂2号線	2004年 11月	京都府
川関高架橋	2005年 3月	国土交通省近畿地方整備局
中央大橋	2005年 5月	盛岡市
⋮	⋮	⋮

4. 落橋防止ユニバーサルシステム

ブラケットのコンパクト化により施工性の向上、コストの削減を実現した落橋防止装置の新システム

(落橋防止装置の従来型ブラケット)



ブラケット

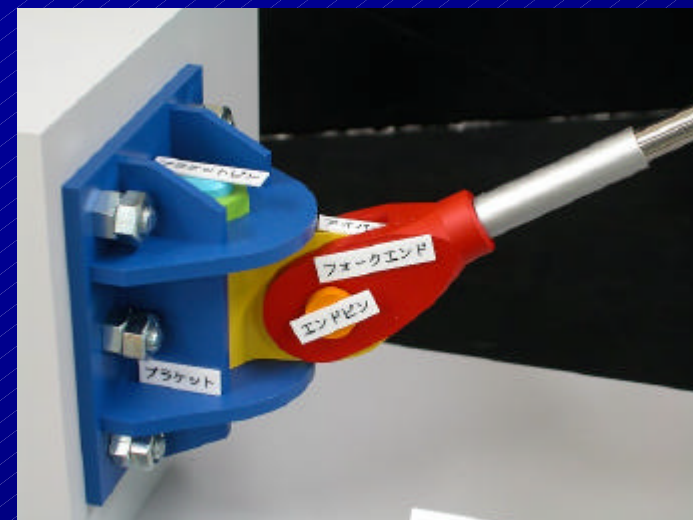
従来型下部工ブラケットの課題

- ◆ 形状の大きさと重量の重さ（ブラケット内部の構造的な理由）。
- ◆ 下部工鉄筋の切断やアンカーボルトのピッチ等、ベースプレート形状を都度修正する必要あり。

4. 落橋防止ユニバーサルシステム

ユニバーサルシステムの特長

- ブラケットのコンパクト化による
コスト縮減
(従来型に比べ5～15%)
- 施工性の向上
コンパクトな形状と自在性により、
ブラケットを移設して下部工鉄筋の
切断を回避できる。



ユニバーサルシステム

学校・病院の耐震補強（パラレル構法）

■ 聖学院小学校（東京都北区）



学校・病院の耐震補強（パラレル構法）

- 重要な医療施設の耐震補強
災害時、医療施設の確保
(2003年1月 内閣府調査)
全国の43.9%の病棟が耐震性に疑問
- 学校、体育館の耐震補強
災害時、避難所の確保

朝日新聞 2004年(平成16年)11月28日 日曜日 42620号 (日刊)

耐震化策

全国9000病院を調査

厚労省方針 改修促す狙い

新潟県中越地震で、医療機関が建物の被害から入院患者を移送する事態になったことを重視した厚労省は27日、全国約9千病院を対象に耐震化対策の緊急調査を近く実施する方針を固めた。大地震でも倒壊しないよう耐震基準に疑問がある病棟が4割あり、震災時に入院患者の安全だけでなく、傷病者の治療もできなくなる懸念があるから。厚労省は今年度中に結果をまとめ、耐震改修への助成制度を充実させていきたいと意欲を示す。

調査対象は、病床以上ある全国の病院。都道府県を通じて、調査票を送り、耐震基準がクリアしているか、耐震診断が済んでいるか、などを調べる。病院側は業務時の資料などから回答する。

このうち、全国5000の災害拠点病院については、自家発電設備の設置など災害時の対応マニュアルは整っているかどうか、れぐらしい負荷を受ける病棟で災害時の資料を入れることができるかどうか、地震域で災害が起きた時に医療的な支援が人派遣できるか、など運用面の調査も検討している。

中越地震では、三つの病院で、入院患者全員を避難させる事態が起きた。小千谷総合病院では、被災した10日町病院と中条第2病院も、入院患者が運び出された。災害拠点病院に指定されていた県立10日町病院は、診療ペースや救急対応は滞りつつも、耐震化が不十分だったため、病棟が被害を受け、一部患者を避難させた。昨年1月に内閣府が発表した調査では、一度7割程度でも死者が出るような倒壊はないとの前提で、回答した約9千病院で、約2万病棟のうち、耐震性がある病棟は約1%。新潟県は、全国平均をやや下回る0.6%だった。

一方、耐震基準強化の前に建築され、耐震診断をしていない病棟30・4%と、改修が必要と診断されたものもかわらず改修していない病棟4・5%の計33・9%が耐震性に疑問が残っていた。このため、厚労省は病院施設の改修に補助金を出すなどして促進しているが、改修されるのは年間1000施設前後でなかなか進まないという。調査結果を受け、緊急性の高い事業に優先的に助成していく方針だ。

朝日新聞朝刊
04年11月28日

第25期損益計算書 (連結)

単位：百万円

科目	平成17/3期 実績	平成18/3期 計画	増減額
I 売上高	8,739	9,460	721
II 売上原価	6,330	6,876	546
売上総利益	2,408	2,583	174
(売上総利益率)	(27.6%)	(27.3%)	(△0.3)
III 販売運賃・販売手数料	268	336	67
IV その他販売・管理原価	2,269	2,054	△215
営業利益	△129	193	322
経常利益	△123	196	320
当期純利益	△122	120	242

分野別売上高・粗利益(連結)

単位：百万円

区 分		平成17/3 実績		平成18/3 計画		
		百万円	構成比	百万円	構成比	増減率
環境防災 事業	売 上	6,962	79.7%	6,910	73.0%	△0.8%
	粗 利 益	2,119		2,178		2.7%
	利 益 率	(30.4%)		(31.5%)		(1.1)
社 会 インフラ 事業	売 上	1,628	18.6%	2,190	23.2%	34.5%
	粗 利 益	266		315		18.1%
	利 益 率	(16.4%)		(14.4%)		(△2.0)
バイオマス その他	売 上	149	1.7%	360	3.8%	142.1%
	粗 利 益	21		90		312.0%
	利 益 率	(14.7%)		(25.0%)		(10.3)
合 計	売 上	8,739	100%	9,460	100%	8.3%
	粗 利 益	2,408		2,583		7.3%
	利 益 率	(27.6%)		(27.3%)		(△0.3%)

連結子会社の状況

バイオマス事業

～ エスイーバイオマステクノ(株)～

■ 中期的な営業戦略

有機残渣処理装置を軸としたリサイクル
処理プラント全体の設計・建設 (プラント・
エンジニアリング)

市場戦略

- 食品関連業者
- 廃棄物中間処理業者
- 大手プラントメーカーとの協力

平成17年度 売上・損益中期計画 ～エスイーバイオマステクノ(株)～

■ 損益実績・計画

(単位：百万円)

	H17/3期 (H16.8～H17.3)	H18/3期 (計画)	H19/3期 (計画)	H20/3期 (計画)
売上高	45	233	340	395
売上原価	66	181	259	301
売上総利益	△20	52	80	93
営業利益	△30	27	40	53
経常利益	△30	27	40	53

アンジェロセックの事業活動

■ 海外活動地域



★ ラデス・ラグーレット橋建設
工事施工監理業務

★ 雲岩大橋入札設計、仁川
第二連陸橋入札設計業務

★ JICA東西ヌサトゥンガラ橋梁
基本設計業務

★ 国道10号線橋梁設計監理・
指導業務

★ 重慶朝天門大橋施工時安定
照査業務

アンジェロセックの事業活動

★ ■ 品確法に対応した業務

※正式名：「公共工事の品質確保の促進に関する法律（H17 4.1 施行）」

◎川上からの参画

現地調査、景観検討等



効率的なルートの選定

様々な技術提案 (OEM)

- ・経済合理性
- ・構造合理性

国内外プロジェクトへのフランス
アンジェロップ社との共同化

アンジェロセックの事業活動

■ 損益実績・計画

(単位：百万円)

	H16/3期	H17/3期	H18/3期 (計画)
売上高	110	119	160
売上原価	72	57	100
売上総利益	38	62	59
営業利益	3	29	29
経常利益	3	28	28
当期純利益	3	28	27

SECグループの中期的展望

SECグループの中期的展望

■ 中期的な展望に向けて

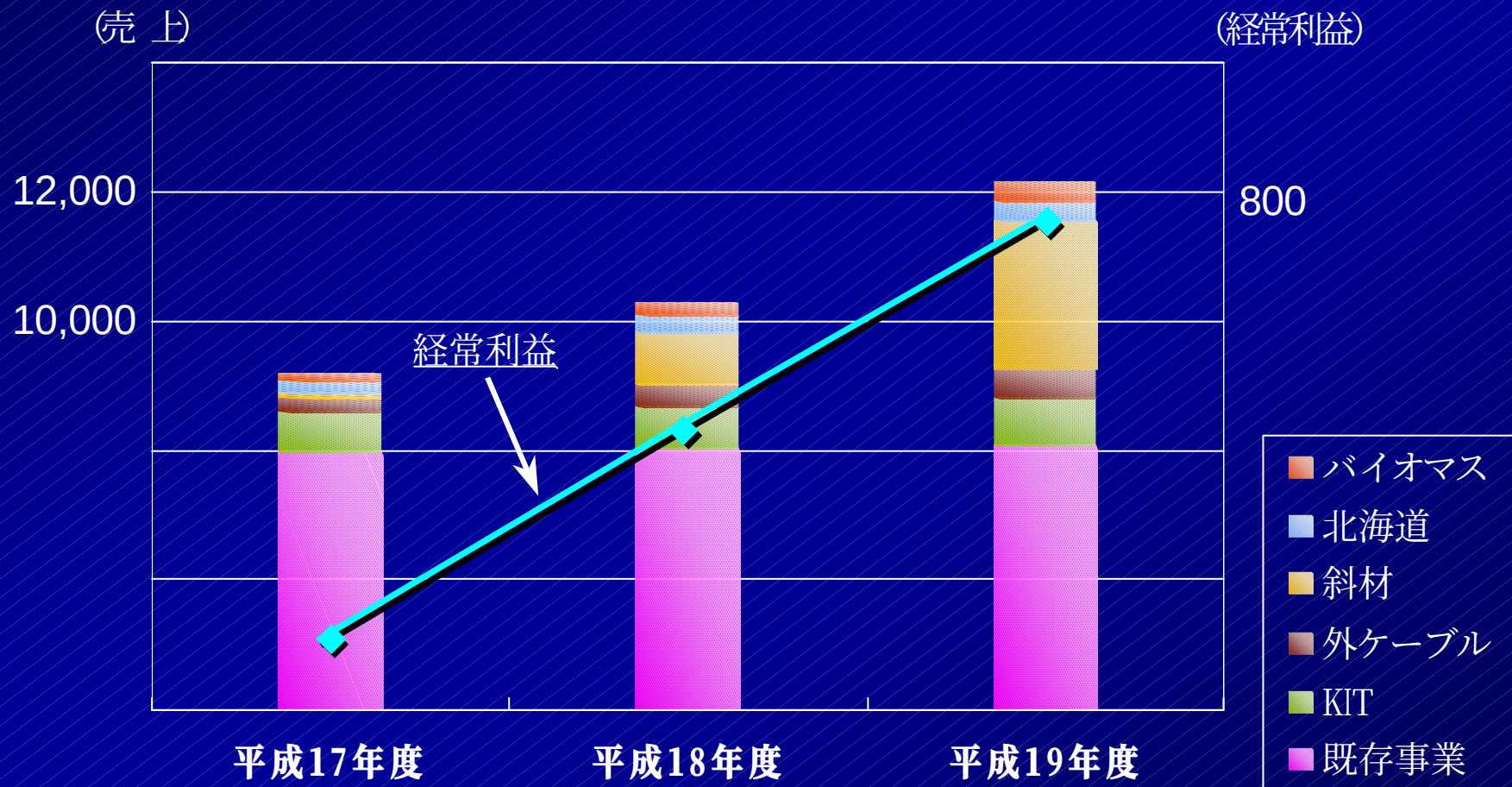
(課題)

- 既存事業の安定確保 (85億円化)
- 新製品KIT受圧板とタイブルアンカーM型の拡販
- 社会インフラ事業部門の積極的拡大
- 補強市場拡大への外ケーブルの拡販
- 国内外の斜材市場への積極的取組み
世界レベルの斜材架設エンジニアリングの推進
- 新規成長分野であるバイオマス事業の本格化

SECグループの中期的展望

■ 平成17～19年度 売上高・経常利益 (単体)

単位：百万円



SECグループの事業展開

海外市場

アンジェロップ
(フランス)

ティアイエス
(韓国)

コリアエスイー
(韓国)

九春工業
(台湾)

重慶国立設計院
(中国)

国内市場

株式会社エスイー

株式会社アンジェロセック

エスイーバイオマステクノ株式会社

Globality Engineering Maker

SEC

株式会社 エスイー